

令和6年4月保留児童の分析結果について

令和7年1月27日
こども青少年局

- ・令和6年4月の保留児童1,691人（育児休業延長希望を除く）について分析を行いました。
- ・保留となった方の申請園数が決定者より少ないことや単願者が多いこと、園を絞り込む要因とその人数の分布について、昨年度の分析結果と同様の傾向となり、大きな差は見られませんでした。

1. 調査概要

(1) 対象者

- ・令和6年4月1日現在の保留児童（希望どおりの保育所等を利用できていない方）のうち、育児休業延長の希望※を除いた方 1,691人

※育児休業は原則として、子が1歳に達するまで取得できるが、保育所等に入れない場合等に限り、最長2歳に達するまで延長が可能。（育児休業を延長するには、保留児童になることが条件）

【表1-1】対象者の年齢別、状況別の人数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
横浜保育室等※入所	8	171	142	83	49	23	476
育児休業の延長を許容できる方	76	231	30	1	0	0	338
求職活動を休止している方	12	60	29	5	2	0	108
特定保育所等のみの申込者など	72	413	215	48	10	6	764
待機児童	0	4	1	0	0	0	5
計	168	879	417	137	61	29	1,691

※横浜保育室、幼稚園等預かり保育、企業主導型保育事業、年度限定保育事業、一時保育等

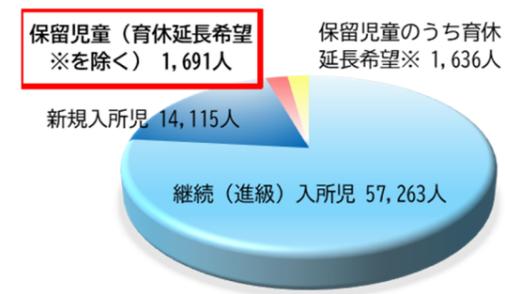
(2) 分析に使用したデータ及び分析の方法

- ・提出された申請書（給付認定申請書、利用申請書）をもとに、申請状況の全体の傾向や、希望園の選択に影響すると思われる「個別要因」、「制約条件が見られない方」を申請園数に分けた分析を実施。
- ・保育所等利用保留児童実態調査（令和6年8～9月実施）の結果もデータに紐づけて、申請時の利用意向の強さや保留となった後の児童の保育状況、保護者が園選択において重視した要因を踏まえて分析。
- ・昨年度の保育所等利用保留児童実態調査（令和5年8～9月実施）の結果も活用して、令和5年4月に保留となった児童の令和6年の状況について追跡調査を実施。

【図1-2】個別要因抽出イメージと6年度・5年度の該当者数



【図1-1】令和6年4月1日現在の入所申請者 n=74,705



2. 全体の状況

(1) 申請園数

- ・保留児童の申請園数は、1・2歳児が多く、幼稚園等も選択できる4・5歳児が特に少ない傾向に変化はなかった。

【表2-1】保留児童の申請園数の平均・中央値と単願者の割合

	保留児童数	申請園数		単願者割合
		平均値	中央値	
R6.4	1,691人	4.9園	3園	25.0%
R5.4	1,755人	5.0園	3園	25.0%
増減	▲64人	▲0.1園	変化なし	0.0pt

(2) 新規入所児（決定者）との比較

- ・新規入所児は、平均値6.6園、中央値5園で、保留児童よりも選択する園が多い。10園以上の申請が多く、単願(1園のみ)の割合は、保留児童よりも少ない傾向に変化はなかった。

【表2-2】年齢別の申請園数の平均、中央値

年齢	人数	平均値	中央値	最大値
0歳児	168 (205)	2.6 (3.0)	2 (2)	11 (12)
1歳児	879 (954)	5.8 (6.3)	4 (5)	37 (46)
2歳児	417 (364)	5.2 (4.2)	4 (3)	34 (21)
3歳児	137 (140)	2.4 (3.3)	2 (2)	14 (21)
4歳児	61 (56)	1.8 (2.1)	1 (1)	9 (8)
5歳児	29 (36)	1.4 (2.1)	1 (1)	5 (18)

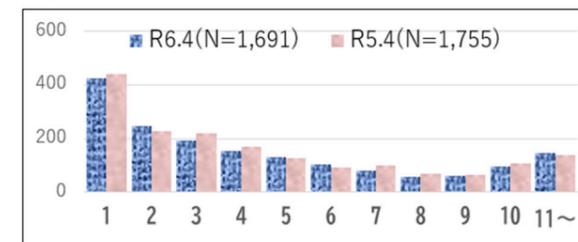
※カッコ内は、令和5年4月1日現在の保留児童（育児延長希望を除く）の状況

【表2-3】保留児童と新規入所児の申請園数

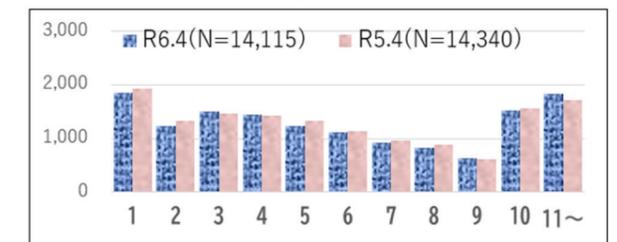
	人数	申請園数		単願割合
		平均値	中央値	
保留児童	1,691人 (1,755人)	4.9園 (5.0園)	3園 (3園)	25.0% (25.0%)
新規入所児	14,115人 (14,340人)	6.6園 (6.5園)	5園 (5園)	13.0% (13.5%)

※カッコ内は、令和5年4月1日現在の保留児童（育児延長希望を除く）の状況

【図2-1】保留児童の申請園数



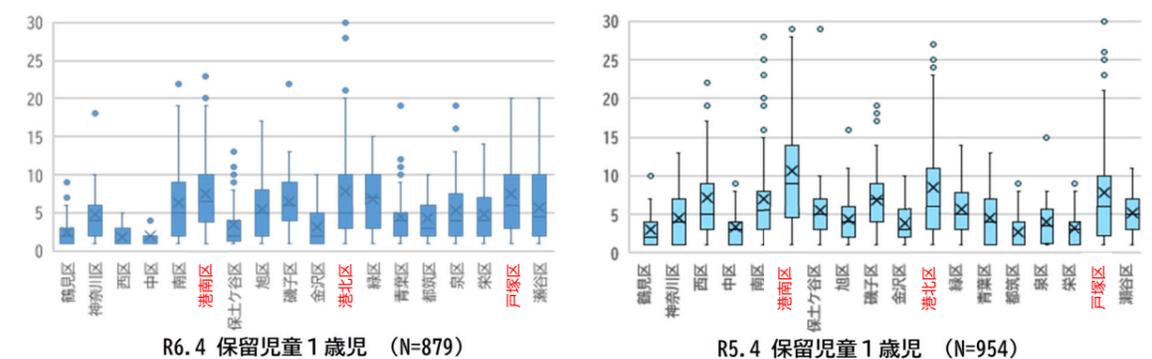
【図2-2】新規入所児（決定者）の申請園数



(3) 1歳児の区別の状況

- ・保留児童が多く、待機児童がいる港南区・港北区・戸塚区の申請園数が多い傾向に変化はなかった。

【図2-3】各区1歳児の保留児童の申請分布（箱ひげ図）



3. 個別要因の状況①

1 障害児・医療的ケア児

全該当者：14人（0.8%）、うち医療的ケア児6人

※申請段階で医療機関等を受診して診断が出るなど、各区が入所にあって事前調整を行った方を抽出。

- ・障害児の数は13人減、医療的ケア児は3人増となった。
- ・昨年度同様、申請園数平均（2.1園）は保留児童平均（4.9園）より少ない。
- ・待機児童5人のうち2人が障害児・医療的ケア児だった。

【表3-1】申請園数平均

項目	該当者数	申請園数平均
障害児・医療的ケア児	14人 (27人)	2.1園 (3.2園)
保留児童平均	1,691人 (1,755人)	4.9園 (5.0園)

※カッコ内は令和5年4月1日現在の保留児童（育休延長希望を除く）の状況

2 駅から遠い場所に居住(距離※2.5km以上)

全該当者：69人（4.1%） / 要因順別該当者68人（4.0%）

- ・駅までの距離が2.5kmを超える69人の申請園数平均は4.8園であり、自宅から駅までの距離によって、申請園数に大きな違いは見られない。

【表3-2】駅と自宅の距離と申請園数 通勤に駅を利用する方 n=1,262

駅距離(km)	0~	0.5~	1.0~	1.5~	2.0~	2.5~	3.0~	3.5~
申請園数平均	4.6園 (4.8園)	5.1園 (5.1園)	5.5園 (5.8園)	4.9園 (5.8園)	3.7園 (4.9園)	5.1園 (4.0園)	5.1園 (5.0園)	4.0園 (3.0園)
中央値	3園 (3園)	4園 (4園)	4園 (4園)	3園 (4園)	2園 (3園)	5園 (4園)	3園 (2園)	2園 (2園)
人数	265人 (254人)	468人 (442人)	290人 (297人)	108人 (116人)	62人 (53人)	22人 (28人)	22人 (16人)	25人 (34人)

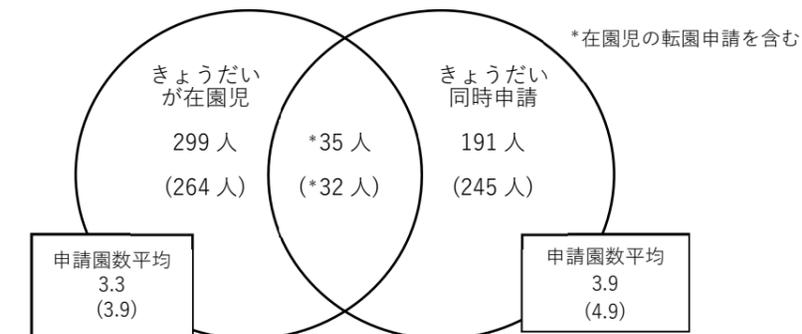
※距離測定アプリケーションによる自宅と駅までの距離
※カッコ内は、令和5年4月1日現在の保留児童（育休延長希望を除く）の状況

3 きょうだい保育園または同時申請

全該当者：455人（26.9%） / 要因順別該当者434人（25.7%）

- ・申請園数は平均3.6園で、きょうだいが在園児は3.3園と少なく、44.5%（133人）が単願だった。きょうだい保育園の申請園数が平均より著しく低下する傾向に変化はなかった。
- ・該当者の2人が待機児童であり、全て「きょうだいが在園児」に該当する方であった。

【図3-3】きょうだいが在園児と同時申請の申請園数平均



※カッコ内は令和5年4月1日現在の保留児童（育休延長希望を除く）の状況

4 低学年児童等※きょうだいあり

※放課後キッズクラブや学童保育所などの利用も多い小学校3年生以下のきょうだいがいる方（3 きょうだい保育園または同時申請を除く）

全該当者：279人（16.5%） / 要因順別該当者263人（15.6%）

- ・1歳児が最も多く110人だったが、3～5歳児も82人を占めた。
- ・小学校1～3年生のきょうだいがいる方（216人）の申請園数は、平均3.7園と昨年度より減少し、保留児童平均との差は広がる結果となった。
- ・就学前児童のきょうだい※があり、保留児童のみ申請された方の申請園数は平均4.0園で、「きょうだい保育園または同時申請（3.6園）」とほぼ同じであった。

【表3-4】申請園数平均

項目	該当者数	申請園数平均
小学校1～3年生のきょうだいあり	216人 (199人)	3.7園 (4.0園)
就学前児童のきょうだいあり※	125人 (117人)	4.0園 (4.2園)
保留児童平均	1,691人 (1,755人)	4.9園 (5.0園)

※就学前児童のきょうだいのうち、お一人は保育所等を希望し、お一人はご家庭や認可外保育所等で保育をされる方

※カッコ内は令和5年4月1日現在の保留児童（育休延長希望を除く）の状況

5 同一法人のみ選択

全該当者：21人（1.2%） / 要因順別該当者14人（0.8%）

- ・該当者のうち19人は2園のみ、残りの2人も3園のみ選択である。

【表3-5】同一法人のみ選択

項目	該当者数	申請園数平均
全該当者	21人 (23人)	2.1園 (2.1園)
要因順別該当者	14人 (13人)	2.0園 (2.1園)

※カッコ内は令和5年4月1日現在の保留児童（育休延長希望を除く）の状況

6 認可保育所のみ選択

全該当者：798人（47.2%） / 要因順別該当者460人（27.2%）

- ・小規模保育事業等の入所が可能な2歳児以下1,464人のうち、希望園が2園以上で認可保育所のみを記載した人は48.6%を占めた。
- ・10園を申請した方の約3割は「申請書の希望欄は埋める※が、全て認可保育所のみ」という方だった。

※申請書の希望欄は10園まで記入でき、それ以上を希望したい方は別紙添付が可能。

【図3-6】2歳以下で小規模保育事業を選択せず、認可保育所のみを選択している方の申請園数別の割合



3. 個別要因の状況②

7 短時間就労者・求職者・内定者等（利用調整のランクが低い方）

全該当者：637人（37.7%） / 要因順別該当者 161人（9.5%）

- ・申請園数平均に変化はなかった。
- ・該当者の横浜保育室等入所者の割合は、昨年度より上昇したが利用者数自体は減った。
- ・**短時間就労の方の中には一時保育でも対応可能な方がおり、保留児童平均より利用割合が高かった。**

【表 3-7-1】短時間就労者・求職者・内定者等の申請園数と横浜保育室等入所者数

項目	該当者数 (A)	申請園数平均	うち横浜保育室等入所	
			入所者数(B)	(B/A)割合
短時間就労者・求職者・内定者等	637人 (829人)	5.6園 (5.6園)	150人 (173人)	23.5% (20.9%)
保留児童平均	1,691人 (1,755人)	4.9園 (5.0園)	476人 (478人)	28.1% (27.2%)

※カッコ内は令和5年4月1日現在の保留児童（育児延長希望を除く）の状況

【表 3-7-2】短時間就労者の一時保育利用者の割合

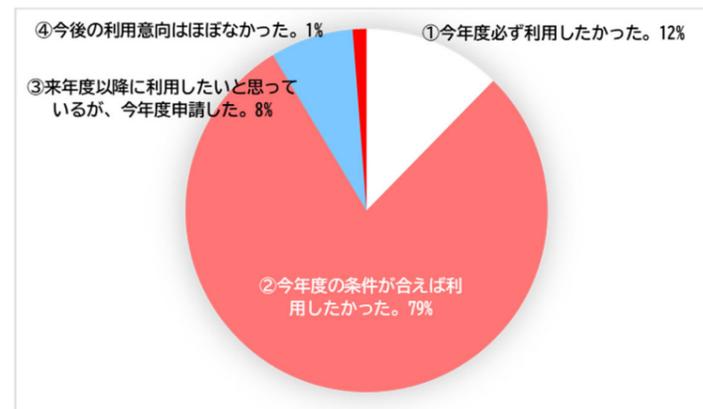
項目	保留児童数	うち一時保育利用
短時間就労者	226人	12.4% (28人)
保留児童平均	1,691人	4.5% (76人)

8 制約条件が見られない方/単願（1園のみ）の申請

全該当者：423人（25.0%） / 要因順別該当者 103人（6.1%）

- ・要因順別該当者(103人)で保留児童実態調査の回答があった 81人のうち「今年度必ず利用したかった」と回答したのは10人であった。
- ・「今年度必ず利用したかった」と回答した方の3人は近距離の園を希望していた方、7人は他の施設や事業を利用している方であった。

【図 3-8】要因順別該当者の利用意向の強さ※n=81



※令和6年4月1日現在の保留児童実態調査での調査

9 制約条件が見られない方/2～5園の申請

全該当者：724人（42.8%） / 要因順別該当者 41人（2.4%）

- ・要因別順該当者(41人)の約半数にあたる 19人は利用申請段階におけるアンケート欄に、利用を希望できなかった場合「育児休業延長」と回答していた。保留児童実態調査においても、回答があった29人のうち、現在の状況を「育休中」と答えた方が19人おり、育児休業取得者を中心に構成されている。
- ・要因別順該当者の約98%である40人は養育児童数が1人である。第1子の保育所入所に向けて、距離や保育方針などの観点から園を検討した層と考えられる。

【表 3-9-1】要因別順該当者の利用できなかった場合の予定(複数回答可 n=41(48))

予定	児童数
育児休業延長	19(22)人
現在利用の施設を利用	2(2)人
他の施設を利用	10(15)人
保護者が保育する	9(5)人
その他	1(1)人
未記入	5(9)人

【表 3-9-2】未記入の方の現在の状況※

現在の状況	児童数
育児休業中	4(2)人
就労中	1(2)人
求職中	0(1)人
回答なし/施設利用中	1(5)人

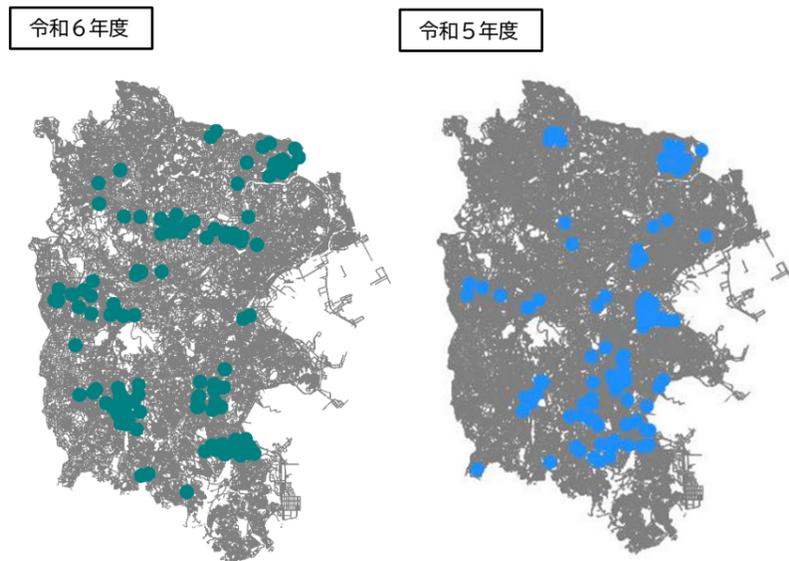
※令和6年4月1日現在の保留児童実態調査での調査

10 制約条件が見られない方/6園以上の申請

全該当者：544人（32.2%） / 要因順別該当者 133人（7.9%）

- ・**令和7年4月開所に向けた認可保育所や小規模保育事業所の整備が必要なエリアとほぼ一致している。**

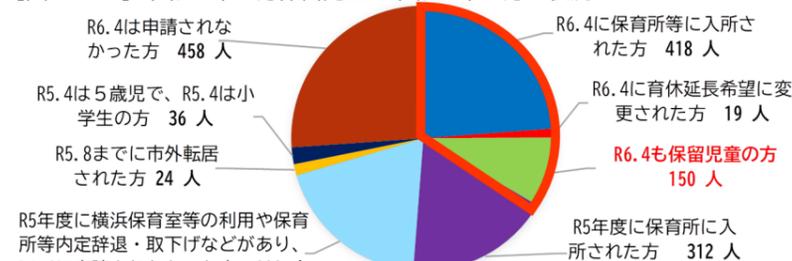
【図 3-10】制約条件が見られず6園以上申請の居住分布 n= R6:133 R5:124



その他1 令和5年4月保留児童の令和6年4月の状況

- ・令和5年4月1日時点の保留児童（育児休業延長希望を除く）1,755人について、令和5年8～9月実施の保育所等利用保留児童実態調査及び令和6年4月の申請状況から追跡調査した。
- ・令和6年4月も継続して申請された方は、587人（33.4%）で、保育所等に入所された方は418人だった。

【図 3-11-1】令和5年4月保留児童の令和6年4月の状況



【表 3-11-2】令和6年4月も保留児童の方(150人)の状況

状況	人数	R6.4 申請園数平均
横浜保育室等*を利用している方	71人 (54人)	3.9園 (3.6園)
令和5年度中に申請 取下げや内定 辞退等 があった方	4人 (12人)	6.8園 (6.3園)
申請取下げ・内定辞退等や横浜保育室等の利用が確認できなかった方	75人 (56人)	5.8園 (4.1園)

カッコ内は、令和4年4月保留児童の追跡調査結果

その他2 受入枠のない園のみの申請者

- ・1次・2次各申請の利用調整時において、申請園と受入枠との関係を確認したところ、受入枠がない園※のみを申請した方が235人おり、入所が困難な状況にあった。
- ・単願者では全体(423人)のうち、約37.1%にあたる157人が受入枠がない園のみの申請であった。
- ・2園以上申請した方でも、78人は受入枠がない園のみの申請となっていた。

※申請者は受入可能数をホームページ等で確認することができる。退園者の補充で空きが出る場合があるため、受入可能数が0である園も申請することが可能。

【表 3-12】受入枠がない園のみを申請した方の数（申請園数別）

園数	1園	2園	3園	4園	5園	
人数	157人	31人	21人	9人	4人	
園数	6園	7園	8園	9園	10園以上	合計
人数	4人	2人	1人	4人	2人	235人